

平成29年度第1回倉吉未来中心運営懇談会 概要

日 時：平成29年8月31日（木）

19:00～20:30

場 所：倉吉未来中心セミナールーム6

1 開 会

2 あいさつ 野崎館長

3 資料説明

- ・資料1 平成28年度第2回倉吉未来中心運営懇談会 概要
- ・資料2 平成28年度倉吉未来中心運営懇談会での意見・提案・対応状況
- ・資料3 平成29年度倉吉未来中心実施事業の概要
- ・資料4 倉吉パークスクエア サマーフェスティバル2017 チラシ
- ・当日配布 倉吉パークスクエア サマーフェスティバル2017 入場者数（会場別）
→ 入場者数のカウント方法について指摘があったため、次年度実施の際は改善する。

4 意見交換

(1) 倉吉未来中心がアートを通じて地域から求められること、できることについて

(2) 地域の連携と活性化について

- (未来中心)** まず、説明にもあった倉吉パークスクエア サマーフェスティバルを取り上げたい。この事業は、倉吉未来中心が中部地域の連携推進と地域の活性化という役割や、中部地震からの復興も兼ねてパークスクエア内の図書館、なしっこ館、よりん彩、市営プールと連携して企画し、実施した。その中で中部地域1市4町の企画展は是非行いたいと思い、松田龍委員、中本委員、山根委員、岩本委員、四門委員に相談し、提案や紹介をしていただいた。関わっていただいたり、見ていただいた委員の方のご意見・ご感想を伺いたい。
- (委員)** 40数年前から集めた約600種のマッチを持っており、倉吉市の展示ブースでマッチコレクションを行った。一緒に野崎館長提供の古いレコードプレーヤーやタイプライターなども展示したが、これらやマッチに触れることで、親子や家族の会話がたくさん見られた。サマーフェスティバルの中で感じたことは、簡単な展示であっても、自分たちで作り上げたり、触ったり、確認したりすることにとっても興味を持っていたので、こういった展示の仕方が一つの方向ではないかと思った。また、中部地区で何かを集めるだけで、おもしろいものができると思った。集めるということ言えば、中部のピアノ教室が一堂に集まって演奏会ができないかと思う。太鼓は中部で一つとなって公演をしたが、これを通じて初めて知った団体もあったそう。ピアノに限らず、書道、写真、版画なども一つになって取り組むことで、おもしろいものができると思うので提案させてもらった。
- (委員)** ピアノの先生は個性が強いが、去年は9つのピアノ教室が集まって、ハワイアロハホールでいろんな子どもが出られる演奏会を開いた。今年も米子で開催するが、このように鳥取県や子どもたちのことを思って取り組んでいることもある。
- (未来中心)** そういった取組に、倉吉未来中心を活用してもらってもいいと思う。今回のサマーフェスティバルは、各地域で元気なものを出してくださいとお願いした。北栄町の写真で協力をいただいた山根委員さんに感想など伺いたい。
- (委員)** 出展した愛好会のメンバーは、倉吉未来中心で展示できることを大変喜んでいて。創作する者は、展示して見てもらうのが生きがいである。こういった展示ができるような未来中心であってほしいし、また、できれば思う。
- (委員)** こういう機会を待っていたとのことであり、良い機会になったと思う。

- (未来中心) 湯梨浜町は書道が盛んであったので、中本委員に町の書道をご紹介いただいた。その中で、大きな作品づくりに小学生に取り組んでもらった。
- (委員) 小学生の作品とは思えないくらい素晴らしかったし、でき上がるプロセスが写真で掲示してあったのも良かった。
- (委員) 湯梨浜町の書道教室には1市4町から来ている。余談になるが、大きな作品は運搬に苦勞し、町の公民館からマイクロバスを出してもらって運んだ。
- (未来中心) 琴浦町については、とても貴重な特別指定文化財である「白鳳の郷」を少しでも伝えたいと思い、四門委員に相談した。
- (委員) 木工教室ができたことも喜んでいた。
- (未来中心) 白鳳のグループの方が木を使った子どもたちの育成（木育）に取り組んでおられたので、ワークショップもしてもらった。また、積み木のコーナーでは、子どもたちが毎日夢中で作っていた。
- (委員) 単純なものほどおもしろいし、子どもたちの創作意欲がわくと感じた。
- (未来中心) 三朝町は、今日欠席の岩本委員に福祉関係での展示を相談した。デイサービスセンターでちぎり絵をやっているとのことで、見に行き、大きな作品を4枚お借りした。高齢者の作品に加えて、子どもたちの作品も展示したいと思い、教育委員会に相談して、町で一番地震被害の大きかった地区の三朝西小学校に展示を依頼した。最初のきっかけづくりをと思い、1市4町の展示を行ったが、未来中心が皆さんの発表の場として喜んでもらえるのなら、今後も取り組みたい。いろいろなアイデアをいただきながら、市民・町民が心で感じて、楽しめて、また、伝えていく場所を作っていきたいと思う。サマーフェスティバルにご協力いただきありがとうございました。
- 続いて、前回も取り上げた「こども食堂」について、河本委員が資料を持参されたので、お話をお聞きしたい。
- (委員) 前回、倉吉市にはこども食堂が4カ所あることとお話したが、こども食堂の連絡会として、こども食堂と行政、倉吉社会福祉協議会が話し合いをしてきた。その中で先日、各食堂に募金箱を置いて、未来の子どもたちのために役立てようということになった。何に使うかはまだ決めてないが、今後話し合いをして決めいく。こども食堂の開催日、時間等は資料のとおりであるが、誰でも行けるので、是非行ってみたい。
- (委員) こども食堂というと、こどもだけというイメージがあるので、誰でも行けることをもっとPRされてはと思う。
- (未来中心) こども食堂については、行政の方でも支援の動きが出てきているように思うが。
- (委員) 国や県、市も子どもの支援ということで力を入れている。倉吉市では新しい事業として、新しくこども食堂を立ち上げる方に資金を援助する取組を始めた。
- (未来中心) 鳥取県文化振興財団でも県と連携して取組を始める予定であるが、県としての方針などはどうか。
- (オガザバー) 取組自体は福祉の部署が中心となるが、文化体験が中々できない子どもたちに財団と協力して公演に無料招待したり、こども食堂に出かけて行って楽しい催しを行ったりすることを順次考えている。
- (委員) そういったところで、コラボができればと思うので、よろしくお願ひしたい。
- (未来中心) 倉吉未来中心では地域でできる福祉への取組を考えて、こども食堂だけではなく、いろいろなところとアクセスして行きたいと思っている。
- (委員) こども食堂は食べるだけではなく、料理をさせてみるのもおもしろいし、道德教育を兼ねるのも良いと思う。
- (委員) 琴浦町でも動きがあり、こども食堂が1カ所開かれた。
- (未来中心) 北栄町はどうか。
- (オガザバー) 聞かないので、動きはないと思う。
- (未来中心) 行政の立場で福祉への取組についてはどうか。

- (オブザーバー) 行政との連携にこだわらず進めていけばいいと思う。また、サマーフェスティバルでもあったように、倉吉未来中心で展示することが喜ばれるのであれば、より愛着を持ってもらうためにも、活動する場をどんどん提供してほしいと思う。
- (未来中心) 倉吉未来中心の役割としては、訪問できる人材の情報を集める・届ける・繋げることだと思っている。その中で、障がいや医療の現場と繋がるには、難しいところもあるが、訪問経験のある新田委員、小林委員にヒントであるとか、感じたことなどをお聞きしたい。
- (委員) 一番長く訪問しているのは倉吉市内の施設で、いろんな人と行っているが、気を付けていることは特になく、子どもたちの様子を聞いた上で、楽しい時間を過ごすようにしている。文化振興財団の芸術宅配便でも養護学校に行っているが、一緒に過ごせて、楽しい音が聞けて、何か作れればと思ってやっている。
- (委員) 訪問先として母子支援施設を紹介したが、こういった施設は外からの行事や音楽会がほとんどないため、実施してくれるとすごく癒されるから良いと言われた。是非実現してほしい。
- (未来中心) 別の母子支援施設には小林委員に一昨年行ってもらった。
- (委員) 事情により制限はあったが、いろいろな話を聞いた上で訪問した。演奏環境は大変だったが、とても喜んでいただいた。望んでいる方たちのところに届けることは、すごく良いことだと思う。話はずれるかもしれないが、こども食堂を最終的にどういう形にしたいと思われているかお聞きしたい。
- (委員) こども食堂をやっている方の最終目標は、こども食堂のない世の中にしないといけないと思っている。
- (委員) 家庭が大変な子どもたちにとって、夏休みは行く所や食べる所がない。子どもが歩いて行ける所に、常にお菓子があるだけでも違うし、そこにお金を使うことも必要なことだと感じている。もっと日常的に行ける所があればと思う。
- (委員) こども食堂の方は、自分たちのやれる範囲で、できることを継続してやっておられる。毎日あるのが理想であるが、現状では民間も行政も厳しいところである。
- (委員) ホールに来ることができない子どもたちに文化芸術を届けることは、触れるきっかけにもなるし、素晴らしいことなので、こども食堂と繋がってほしいと思う。
- (委員) 皆さんの意見を聞いてきた中で、未来中心が1市4町の情報を集める役割や一つにまとめる仲介役になって、繋げてほしいと思った。
- (未来中心) 昨年度の懇談会において、松田隆委員が子どもたちにいいホールで本物に触れる必要性を話された一方、病院に届けることもニーズは高いとのことであった。医療現場の立場から松田隆委員に改めて思いをお聞きしたい。
- (委員) まずは本物に触れることが大事である。テレビやビデオではなく、生でないと臨場感や肌で音を感じることができない。子どもたちの感性を養うには、五感をしっかりと使わなければいけないと思っている。このことは高齢者も同じであり、リラックス効果や寝たきりの方に効果が出た事例はたくさんあるし、障がいのある方にも効果は大きいと思う。届けてもらうことはいいことだが、その情報を病院や施設ではわからないので、未来中心が情報を流してほしい。情報が入れば、やってみようかと思う。施設で聞いて、今度はホールで聞いてみたいとなればいいと思う。
- (委員) この間、音楽療法の世界大会に行ってきたが、世界中の医療や福祉の現場で音楽が大事であると考えられており、ミュージッキング (musicing) ということをやっていた。これは、音楽を単に演奏するのではなく、演奏にもストーリー、プロセスが必要であり、それをどう届けるか、どう感じてもらうか、どう繋げるかを考えながらしなさいということだった。未来中心だからできることがあると思うし、個人ではできないことをやってほしいと思う。
- (未来中心) 施設の利用やサービスについて、ご意見があれば伺いたい。
- (委員) 未来中心の正面玄関から交流プラザへ行く際の案内がわかりづらいとの声を聞いた。また、未来中心と交流プラザの使用料だが、未来中心には減免制度があるが、交流プラザにはないため、減免が統一されているといいなと思う。

- (未来中心) 管理施設が財団と倉吉市で違うため、統一できていない現状がある。
- (委員) 利用者の立場で言えば同じなので、考え方が変わればと思う。
- (未来中心) 施設への行き方がわかりづらいことについては、承知しており、改善を図っているところだが、他にもわかりづらい所があれば教えていただきたい。
- (委員) 喫煙所だが、子どもたちがよく通るところであり、受動喫煙になるため、別の所に移動するようにしてほしい。
- (未来中心) 未来中心やパークスクエアを良くしていくために、今後もいろいろと相談させていただくので、お力をお借りしたい。
- (未来中心) 平成30年の4月～6月に大ホールを休館して音響設備の更新を行い、7月～8月には小ホールの音響設備を更新するので、ご迷惑をお掛けするが、ご承知いただきたい。
- (未来中心) 次回の運営懇談会は平成30年3月上旬の開催を予定しているので、ご承知いただきたい。
- (未来中心) 本日はありがとうございました。

5 閉 会

【運営懇談会の様子】

